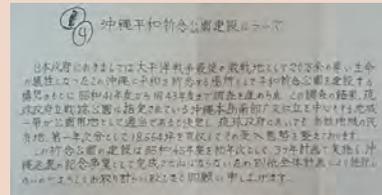


「平和の礎」の建設



▶「平和祈念公園」建設の経緯

1965年、琉球政府は沖縄島南部の激戦地跡や霊域一帯を「沖縄戦跡政府立公園」に指定し、整備を始めました。この公園は日本復帰により「沖縄戦跡国定公園」となり、うち摩文仁丘一帯は県営「平和祈念公園」として本格的な整備事業が進んでいます。



【琉球政府文書 / 総務課文書】
「山中総務長官に対する要請事項」
平和祈念公園建設に関する要請文
1970年6月 資料コード R00010639B

1970年に琉球政府が山中貞則総務長官に提出した要請文書に、公園用地の購入計画図が添付されています。

▶「平和の礎」の建設

1995年、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年記念事業の一環として、沖縄県は平和祈念公園内に「平和の礎」を建設しました。国籍を問わず軍民すべての戦没者の氏名を刻んで永久に残すことで、恒久平和の希求と悲惨な戦争の教訓を継承するとともに、沖縄戦などで亡くなった全ての戦没者を追悼し、平和学習の拠点とすることが目的です。

【琉球政府文書 / 援護課文書】
「陸軍兵籍簿 那覇」
0001～0188001
資料コード R00159448B



「陸軍兵籍簿」ははじめ、多くの援護関係資料が照会資料として活用されました。個人情報に記載されているため、利用を制限しています。

▶戦後69年を経て

遺骨収集や「平和の礎」追加刻銘が現在でも行われる一方、戦争体験者が減少する中で、戦争体験の記憶・記録をどのように継承して行くかが問題となっています。県民が望み、継続してきた「慰霊の日」の意義や、沖縄戦の記録と記憶は、後世に伝えるべき県民の財産です。公文書館の所蔵資料がその一端をにうことができるよう願っています。



沖縄戦最後の激戦地となった糸島市摩文仁に建設された「平和の礎」全景